

昭和元	五二一三	二一八六
二	五九〇九	二六三七
三	七〇六八	二四五〇
四	五三七七	二五五三
五	五二六七	二一八五
六	七九九二	二六九二
七	七一九七	三、四二〇

と大正十一年、昭和七年、十年間に朝鮮米は二、三倍、台湾米は四、六倍に激増した。しかし問題は單に生産増加のみが過剰米を招致するものではない。生産増加が米消費と同一歩調であれば、米の過剰は起らない。この事實は人口増殖の割合に米の消費の増加せざる次の表が物語つてゐる。

人口（單位千人）前年度 米消費（千石）前年度増減
 昭2 六〇、九八五 増減名（△） 六七一八〇 △、〇五八（△）

3	六、七七八七	一、三%	七〇、二九八	三、一一八
4	六三、〇七八	二、一%	六九、四八五	△ 八一三
5	六四、〇四三	一、五%	六八、九三〇	△ 五五五
6	六四、九八三	一、五%	七三、〇一二	四〇八二
7	六五、九〇七	一、六%	六六、四三四	△ 六五七八

今これを次の統計によつて見ればもつと明瞭だ。

一人當一ヶ年米消費量（單位石）

大正一五	一、一三二	昭和七	一、〇〇八
昭和二	一、〇九八		
三	一、一三〇		
四	一、一〇二		
五	一、〇七六		
六	一、一二四		